磐城商工時報

月三回發行五、十五、廿五日
發行兼編輯人印刷人　渡邊源吉
福島縣平田町二番地
發行所　磐城商工時報社
印刷所　加納活版所
廣告料　五號十四字詰一行廿錢　場所指定拾錢增
新聞定價　一部金五錢　一ヶ月十五錢　一ヶ年一圓六十錢

紙齡三年を加へて

主幹　渡邊源吉

私は嘗て五年前始めて新聞界に身を投じて以來間接にも新聞經營の經驗を得、如何に小新聞でも其經營の困難であることを体驗しましたが、新聞が又如何に人心に至大の影響を及ぼし、社會上に如何に反響を招ぐかといふことも實際に携つて見て驚く可きものがあります、此の意味に於て新聞を作る者も、又經營者としても充分其点を考慮し愼重の態度を以て當面することの極めて重且つ大なることを感ずるのであります。

私はこうした責任と自信とを抱いて磐城商工時報を創刊してより既に三年を經、斯に三週年記念號を發刊することになりました、新聞經營の困難なる事は單に地方の小新聞に限らず中央に於ける大新聞と雖も矢張り經營の苦味を体驗する点に於ては同一であると思ひます、殊に平町の如く多數の新聞が存在する以上相互的により其受難の程度が甚しいのは止むを得ない事だと信じます、不肖私が本社を經營するに當つては單に全力を此方面にばかり傾注することの至難を敏り商店を經營する傍ら商店の指針ともなり、石城實業界の機關ともなり、微力乍らも盡したいと云ふ意志から本社を創立した所以でありました、商店を經營する傍らこうした小新聞を發刊するに當つても私單獨の經營であるので從つて紙面も遺憾乍ら縮少せねばなりませんが目下本社の發展策に就いて準備中でありますから此点を諒とせられたい、こうして兎に角三週年を迎へて今後更に勇飛しようとする道程に迄こぎつけた事は理解ある諸彥の後援に據る所でありまして深く感銘に堪えないのであります、三週年を期して更に本社の使命と目的の下に邁進する覺悟でありますれば何分の御後援と聲援とを賜はんことを希望して止まぬのであります

堀部留造氏の事業は極めて順調

兎角の噂さは根もなき風說に過ぎぬ

久の濱町堀部留造氏は事業界に飛躍して以來社會の信認と德望があつて氏の事業も擴張され凡ての方面に關係して相當の實蹟を擧げて今日に至つてゐる、久の濱に於ては氏が中堅となり同町民も亦堀部氏を信賴し同町の發展は氏の力に待つ可きものありとし堀部氏も亦同町の爲め幾多の犠牲を拂つて其發展策を講じてゐるが、近頃同氏の事業に關し何にか事あるが如く傳へられる節あるも、全然根もなき風說に過ぎないといふ。

貫虎會總會

憲政派有志に依りて組織されてある貫虎會の總會は六日午後一時より平町南町憲政倶樂部樓上に開會、決算報告、諸般の報告に次いで決議其他の協議を遂げ終つて新藤屋旅館に於て宴會を開いたが盛會であつた。

磐崎村の村長問題

三ツ巴の混戰

磐崎村長堀內司馬太郎氏は大正十四年決豫支出に關し杜撰の点あり去二月十二日の村會に於て攻擊されたのに責任を感じ遂に辭職する事に決したが、後任村長として呼聲の高いのは現助役細井嘉藏氏であるが、村會に於ては過半數に充たず役場派は村議酒井隆吾氏を押し必勝を期してゐるが、これも過半數に充たぬ様子であるが村議中には此際人物本位に依りて進まんとするの意見を有する者ありて村議四家秀行氏を推す一派擡頭したが氏は寄留者の故で表面微力の樣であるが同情と潜勢力あり大勢は四家氏に傾くものゝ如く目下三派入り亂れて暗中飛躍を試みてゐるが、近く開會する後任村長選擧の村會は相當の波瀾はまぬがれまいと。

空宣傳であつた古河自治會は平穩

毎月一回例會を開く

好間村古河炭礦勞働者より成る自治會では先月二十七日大會を開き十ヶ條の要求條項を會社側に迫り若し拒絕された場合は總罷業をなす不穩の形勢あると傳へられたが、一体同會は同炭礦の全部の從業員に依りて組織され共濟勤儉貯蓄、娯樂、保險衛生、能率增進、會員共通の福祉增進並に勞働條件の考究、意志の疎通を計るのが目的で毎月一回例會を開く事が通例になつてゐる。

旅行傷害

保險ならば安心

旅行者の福音
發賣所は平デパート

南枝漸く綻びんとしてそろ〳〵旅行期節となるが、旅行するに當つて最も安心なものは旅行保險を契約する事である、旅行傷害保險料は壹千圓に付き二十一日間の旅行ならば金壹圓、十日間ならば金五十錢、五日間ならば金三十錢の契約であるが、一人につき三千圓迄の契約は出來る、この旅行保險切符の發賣所は中央火災傷害保險會社代理店である平驛前平デパートメントストアーであるから詳細は同所で聞き合せるとが便宜であらう

同業紙評

▲磐城立憲新報　禮讃記事、提灯記事で賑やかしてゐるがこの分なら二三百圓は這入るだらうといふ噂、金を大分殘したといふ評判もこうした金になる記事で滿載されてゐるからだらうといふ話。

▲磐城の實業　例に依つて謎の記事があつて興味を惑く、先づ藝妓屋女將の爛熟した戀の話や、或病院經營者の色魔振りなど謎を寫す記事だ、廣告は少いが、時に一面や半面をつぶすでかい廣告で金になるからちつぽけな廣告は眼中にないらしい。

▲平新報　消息文と、炭礦爭議と、花柳便りで滿つ、常に後援者の消息を掲げ、花柳便りで特色づける。

▲磐城調查新報　旬刊紙で花柳便りを書くのはこの新聞と平新報と、磐城の實業の三社らしい、大分色男がゐると見える、それとも振られたイキの返しに花柳便りとしやれるのだか、それは判斷ものだ、平町議連の意見を募集し馬目君の手ふさぎになる、白翁漫談これは連續もの面白いものゝ一になつてゐる。

▲磐城新報　高木君の外交手腕の跡が見ゆる、廣告は敢ねて立憲に劣らず、勤儉貯蓄號とやらかしたのは奇策の方だらう。

異彩を放つ平陽實科女學校

桐谷文平氏を聘して

酒井ミヨ女史語る

平町平陽女學校は明治三十八年創立以來二十有余年、其間獻身的經營と相俟つて女子教育の爲めに努力した結果其特色と異彩とを認められ逐年發展し現在の理想的校舍を新築し生徒數も每年增加して來たが、今回元磐城中學校長であり本縣社會課長であつた桐谷文平氏を聘して同校の光彩は更に一新した傾きがある、同校長酒井ミヨ女史は語る

「本校を創設いたしましてより最早二十有余年、卒業生を出すこと千五百に達するに至りました、幾分なりとも社會に貢獻いたしました事があれば是れは單に各位の厚き御同情と深き御援助の賜と感謝します、現今の社會を見ますれば教育は年と共に進み智的方面は遺憾なく向上して居りますが其反面に德育は却つて退步の現象を現はし居らるゝ事は識者の共に遺憾とする所であります、殊に本校の如き比較的技術方面に力を注ぐの結果不知不識德育の閉却され勝になるのは已むを得ざる事とは云ひ常に遺憾に考て居つたのでありますが、此度桐谷文平先生を本校名譽校長に推戴し新學期より生徒の德育方面を擔任せらるゝ事になりましたので完全なる卒業生を出すべく努力する考へであります」

好評判な平產婆看護婦學校

生徒募集中

平町南町清野キヨ子女史の主宰に係る平產婆看護婦學校では產婆看護婦の生徒を募集中であるが、入學資格は高等小學校卒業程度又は同等以上の學力を有するもので修業年限は兩科を通じて一ヶ年、申込期間は三月卅一日迄で遠隔の子女には寄宿舍の便もあり志望者により修學一切の費用を貸與する特別の便法もあり十八才以上にして非常に評判がよく入學申込者が多いと。

磐城訓盲院

內容改善

平町磐城訓盲院では此程文部大臣から金三百四十六圓の奬學資金を給與されたので此の資金を以て內容の改善を施すと。

社交手腕ある奮鬪的青年を募る
磐城商工時報社

平稅務署で

組合唎酒會

石城酒造組合第四回淸酒唎酒會は八日より二日間平稅務署樓上に於て開催、九日審查、十日賞狀授與式を行ふが今回の審查員は從來の例を破つて水戶市久我谷鐵太郎氏を招ぐといふが出品百五十點以上に達してゐる。